

「はじめまして」・・・さまざまな文化活動を紹介するページ

「知るよろこび」と「人の和」と

学習サークル「未明会」の44年

「継続は力なり」という言い方はやや手垢のついた表現になった感がある。しかし、長続きしているという点で、掛け値なしに「未明会」は際立った存在だ。

発足は1966（昭和41）年11月。前橋中央公民館が主催した第1回前橋市婦人教室が同年10月に終了したが、「もっと続けて勉強したい」という有志十数名が自主的に集まった学習サークルである。以来メンバーは大きく変わったが、月2回の定例学習日を続けて44年になる。

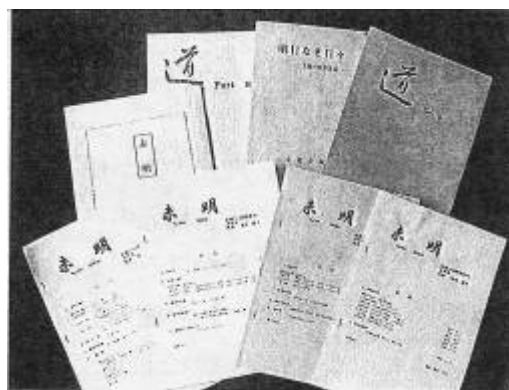
スタート当初は高校教師や社会教育主事がチューターとして毎回参加していたが、その後は会員によるテキストを決めての完全な自主学习に変わった（時に外部から講師を招くことも）。

テーマは子育て、女性史、安保・沖縄問題、教育、福祉と多方面にわたったが、今は主として歴史、それも日本の歴史にとどまらず、世界の各国史、地域史を学んでいる。

半世紀近い歴史ともなれば当然のことながら、創立期の会員にはすでに鬼籍に入られた人も少なくない。夫の転勤で群馬を離れるため、やむなく退会した人もいる。しかし未明会を離れたといっても、元会員たちはそれぞれの場で地域活動や文化活動に活躍しておられるようだ。

この会の特徴は、学習の成果を言いつ放し、聞きつ放しにせず、丹念に機関誌『未明』の上に定着させていること。発足4年目の創刊以来不定期刊だが現在112号まで出た。A4版で20ページ前後、学習会報告、読書会記録、旅行記、エッセイなど。毎月会員のおよそ半数が執筆している。

その他、230ページを超える大冊『明日なき日々―主婦の戦争体験』（1974）や節目の年には『道―私の戦後史』、同Part II・IIIなどを発行してきた。加えて年1回、1泊2日の研修旅行が大きな楽しみ、会員相互の親睦を深める上で大いに役立っている。



もともと婦人教室から始まった会だが、今では男性会員もいる。黒一点の存在だが、ご立派。

以下は7月27日の例会にお邪魔して伺った入会の動機や未明会の魅力などなど。

「15年ほど前に前会長の阿部さんに誘われて。ちょうど朝鮮史の学習中で、一種のカルチャーショックだった。驚きながらも抜けるに抜けられず。途中で休んだ時期もあったが、今日まで続いた理由は『知るよろこび』かな。おかげで政府の発表に疑問を持つようになった」

「退職後の虚脱状態の中で、改めて自分史を見つめ直してみたいと思った。満州事変の勃発直後に生まれ、昭和の戦争と一緒に育ってきたので。前会長に誘われて初めて参加した日に、いきなり中国現代史の学習で4人組を割り当てられビックリしたけれど…」

「夫の死後、福祉について勉強してみたいと思ったことから。旅行がとても楽しみ」

「6年前に会員の一人からコピーを頼まれた

のがきっかけ。介護をしながらの参加はキツイけれども、ストレスのはけ口になっている」

「自由に何でも話せる会であることが最大の魅力。そしていつも《目からウロコ》の思い」

「会員の皆さんがそれぞれに個性的で人間的魅力にあふれているから好き」

「30年前に前橋に転居してきて民話の会と関わり、その担当だった社教主事を通じて未明会を知った。今は心の支え」

未明会への想い

会 長 池田 俊子

未明会が発足してから44年になる。私は3年目頃からの入会と思うが、今では一番古い？（入会の年でも年齢でも）ことになっている。未明会を卒業？して各地域で独自の活躍をしている方達にお会いすることがあると、「未明会が私のルーツよ」と認めてくれる。私と同年齢の方達は、櫛の歯の欠けるように亡くなった方が8人になる。

「私は生き残りよ。年をとるとはどういうことか、私を見て参考にしてくれ」と言って笑いを誘うが、今の会員のみなさんは戦前、戦中、戦後育ちをまじえてそれぞれの個性と共にその時代の教育を身につけていて面白い。特に戦後の大学教育を受けた人が未明会を見つけて飛びこみ、生き生きと続いている言動を見ると、大正生まれの私にとっては目を見張るほど新鮮で、その勉強振りも徹底していてどんどん質問してくる。こちらはどこを質問するかもわからず、初めて知ることを新鮮に聞いている。

1970年9月21日に創刊された機関紙『未明』は、当初はガリ版刷りで当番制、次に満鉄（南満州鉄道）でタイピストだったという会員によるタイプ印刷。現在ではパソコンにインターネットの情報も取り込み、カラー写真入り、しゃれた色の表紙つき、横書きで読

み易い。2010年9月現在でNo.112号まで出た。世の中が進んだのだ。戦後65年、一言で言えば、日本は「女性が社会に出た」という意味でとてもよくなった。

未明会は歴史を学ぶ集いだから、これまでに日本の古代、近現代史、朝鮮併合史、中国近代史、東南アジア、イスラム圏、アメリカ物語史などを学んできた。今、中南米を学び終えるところだが、これまでいつも何も知らなかったことに驚いている。知らされなかった隣国朝鮮との関わりの歴史を知り、これからの未来を考える喜びを期待して、次のテキスト『中・高校生のための朝鮮・韓国の歴史』を始めることにしている。

『未明』最新号の目次から （執筆者名などは省略）

1. 学習会報告
伊藤千尋著『反米大陸』（集英社新書）
○ 第4章 民主主義より軍事政権
○ 第5章 立ち上がった中南米
（*以上を5人で分担執筆）
2. 講演会記録
『祖国アルゼンチンを語る』
前田マルセラ先生（スペイン語講師）
3. 読書会記録
レーニン著『カール・マルクス』（大月書店）
4. 旅行記
栃木路の旅（足尾～栃木～日光）
座談会『未明会の歴史と現状』／池田さん
『米寿のお祝い』／編集後記（28ページ）



7月27日の例会 都合で3人が欠席だった

